

子どもが運動の楽しさやよろこびを味わいながら、教え合い工夫する体育学習をめざして

大分県津久見市立津久見小学校

全校児童数	287名(男子152名 女子135名)		
全クラス数	12	教職員数	26名
体育専科教員訪問学校数			3校
訪問校	青江小・堅徳小・千怒小		
体育専科教員名		井上 富士久	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆体力運動能力調査結果から

- ・「上体起こし」、「20mシャトルラン」、「立ち幅跳び」に課題がある。
- ・運動など、体を動かすことが好きな子どもは男女とも多いが、肥満傾向の子どもの割合が全国・県に比べて高い傾向がある。

◆体育指導の工夫改善

日常の授業では、本時のめあてについてはおおむね示されているが、その日のめあてや活動を振り返る活動が行われていないことがある。

2 取組の計画

- ①児童実態把握
- ②体育指導の工夫改善
- ③体育年間指導計画・授業プログラムの検討
- ④1校1実践の計画・実践
- ⑤本務校・兼務校でのTT指導により、関係校の授業改善を進める。
- ⑥年3回公開授業を実施し、指導方法の工夫改善等、体力向上の効果的な指導のあり方を、市内教職員に広げる。
- ⑦津久見市体育主任会等で、実践報告による指導方法工夫改善の提言を行う。

Do：実践内容

1. 児童実態把握

- (1) 体力・運動能力調査や日頃の体育の授業から、子どもの興味関心の強さやこれまでの運動経験などを把握する。

2. 体育指導の工夫改善

- (1) 1単位時間の授業構成を工夫する。
- (2) 「面白そう!」と興味をもち、「これならできそう」と見通しがもてるよう、運動の場や用具の工夫・改善をする。
- (3) ペア学習やグループ学習を適宜行い、一緒に活動(遊ぶ)し合う・見合う・教え合うなどの学習を進める。

3. 年間指導計画・授業プログラムの検討

- (1) 単元を通しての学習のめあて、本時の学習のめあてと振り返り、次時の予告を行う中で学習の見通しが持てるようにする。
- (2) 次年度に向けて、単元の構成を見直す。

4. 1校1実践の計画・実践

- (1) 年間指導計画に沿って、授業開始直後の「〇〇鬼ごっこ」や「動的ストレッチ」、「感覚運動遊び」などを継続して行うことで心拍数を上げ、体の動きを高めることで、その後の主運動にスムーズに移行するとともに体力向上にもつながる。
- (2) 授業で行った運動(遊び)を、休み時間の運動遊びにつなげ、体力向上を図る。
- (4) 3年生以上の児童の25m皆泳をめざして、夏季休業中に水泳教室「2525 ニコニコチャレンジ」を行う。

5. TT指導による授業改善

- (1) 学級担任と連携し、児童の実態に合わせて授業を行う中で、できた実感や喜びを味わえるようにする。

6. 公開授業の実施

- (1) 年3回公開授業を実施し、運動を楽しみ体力向上につながる効果的な指導の工夫について、市内教職員に提案する。

7. 実践報告による提言

- (1) 津久見市体育主任会等で、実践報告による指導方法についての工夫改善の提言を行う。

●工夫したこと(&苦労した点)

- ①1時間の授業の構成を①体力向上を目的とした準備運動(〇〇鬼ごっこ・動的ストレッチ、感覚運動遊びなど)、②主運動、③振り返りのパターン化を図った。
- ②ペア学習・グループ学習を取り入れた授業を行うことで、見合い、教え合い、励まし合う態度を育て、グループや全体で子どもが温かい雰囲気の中でいろいろな運動に挑戦し、自分やグループの伸びや達成を喜び合う体育学習に努めた。
- ③25m泳ぐことが苦手な3年生以上の子どもを中心に夏期休業中に水泳教室(ニコニコチャレンジ)を行うことで、「やればできる」と自信をもち、喜びを味わうことができた。

Check：取組の成果

- ①授業開始直後の「〇〇鬼ごっこ」や「感覚運動遊び」などを行うことで心拍数が上がり体の柔軟性も高まったことで、その後の主運動にスムーズに移行するとともに体力向上にもつながった。
- ②今の自分の力を知り、その力を高めることに挑戦する活動を仕組む中で、自己の力や記録が伸びたことを実感し達成感を味わう子どもが増えた。持久走では、単元開始前持久走に対して肯定的な考えをもっている子どもの割合は46%だったが、単元終了後に行ったアンケートで、「前より持久走が好きになった」と答えた子ども割合は78%にまで上昇した。
- ②本務校及び兼務校の学級担任と、「体育の時間が楽しい」と思う子どもが増えるように、子どもの実態に応じた「運動の楽しさやよろこびを味わう体育学習」の工夫・改善を行うことができた。

Action：今後の課題

- ①運動好き・体育好きの子どもが更に増えるように、子どもの実態に応じた「運動の楽しさやよろこびを味わう体育学習」の工夫・改善を行う。
- ②体力・運動能力テストの結果や、体育の授業での子どもの様子を分析し、子どもの実態に応じた「1校1実践」の取り組みの改善を行う。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- ①「面白そう!」、「やってみよう!」など、いろいろな運動に興味を持つようになるとともに、休み時間にもその運動(遊び)をして楽しむようになる。
- ②自分の経験から友だちに対してアドバイスや応援をしたり、互いの上達を喜び合ったりすることが増えてくる。
- ③楽しい(活動)時間を長くとるために、集合・移動などにかかる時間が減り、素早く行動できるようになってくる。

浮く・泳ぐ運動での掲示資料と、子どもの動きの一例



低学年「マット・とびばこあそび」活動の場の一例 ①
跳び箱の高さを変えた「ジャンプコーナー」



低学年「マット・とびばこあそび」活動の場の一例 ②
それぞれの上を回転する「くるりんコーナー」



瞬発力や持久力などを高める運動遊びの一例「オセロ遊び」
制限時間内にマーカーコーン等を素早く裏返したりもどしたりする。



筋力を高める運動遊びの一例「レスキュー隊」
ロープを腕だけで引っ張って、前へ進む。リレー形式で行うと盛り上がる。